

第2学年 国語科学習指導案

平成19年6月29日（金）5校時
指導者 馬淵 史子

- 1 単元名 「本と友だちになろう」（教材文「スイミー」）
- 2 単元のねらい
 - ◎ 登場人物の気持ちや場面の様子を想像しながら読んだり、声に出して読んだりして、お話を楽しむ。
 - 友達にも読んでもらいたい本を決め、紹介しあって読書への興味を高める。
- 3 評価規準
 - 【関心・意欲・態度】
新しい読み物に興味をもって読み、感想をもって紹介しようとしている。
 - 【書く】
好きな本について友達によく分かるように組み立てを考えて書いている。
 - 【読む】
場面の様子や登場人物の気持ちを考えて、想像を広げながら楽しんで読んでいる。
 - 【言語事項】
助詞の「は」「へ」「を」を文の中で正しく使ったり、かぎ（「」）の使い方を理解したりして、文章の中で使うことができる。
- 4 児童と単元
 - (1) 児童の実態 (省 略)
 - (2) 単元について
「スイミー」は楽しく、ドラマチックなお話である。仲間の魚たちが、まぐろに飲み込まれ、一人ぼっちになっても知恵と勇気をもって生きている主人公スイミーは、子どもたちにとってヒーローである。子どもたちは、お話の世界に引きこまれて読むことができると考えられる。
叙述については、詩的な表現が多く使用されている。体言止めや倒置法、比喩が多用されている。だから、場面の様子を読みとることは比較的容易にできると思われる。子どもたちは、想像が広がったり、深まったりできるであろう。
 - (3) 単元構想
4月の物語文「ふきのとう」では、「ささやいています」「しんとしています」といった表現に着目するなど場面の様子に気をつけて音読したり、「あくび」「せのびして」「いきをはきました」の表現で動作化をいれて音読したりした。
本単元でもそれらの学習活動を取り入れながら、読みを深めていきたい。さらに、比喩表現で読みとったことを足がかりにしながら、子ども同士の意見をかかわらせ、読み取りをしていきたい。
教師の手だてとして、まず黒板を海の底の世界と見立て、登場人物を絵でかいてはり、視覚に訴えたり、教材文の拡大版に読みとったことを書きこんだりしていく。二次の読み取りの学習では、「どんなスイミーか」を場面ごとに考えさせることで、児童一人一人にスイミーの姿をとらえさせたい。
このお話を読むことで味わった、読む楽しさを「読書の紹介」で広げ、お話列車を作って、さまざまなお話を読むきっかけとしたい。
また、単元の終末には、子どもたちがめあてをもって取り組める活動を取り入れたい。具体的には、場面の様子を読みとることが弱いので、劇にして表現したいと考える。
- 5 本単元における主体的な学びの姿
 - ① 教材文に即して、スイミーや場面の様子を友達と意見交換しながら読んでいる。
 - ② 自分なりに声の強弱、抑揚をつけて音読している。
 - ③ 本を選び、大事なことやおもしろい部分を見つけて進んで紹介する文を書こうとしている。

6 指導計画（全14時間）

次	学習活動と 基礎・基本	関	話	書	読	言	
一 3 時間	<ul style="list-style-type: none"> ○ 範読を聞いて、おもしろいところを見つけてノートに書き出す。 ○ 感想を書く。場面わけを考える。 ○ 新出漢字を書いたり、語句の意味を知ったりする。 	○					【関】おもしろいと思ったところを見つけている。感想を書いている。
二 6 時間	<p>*全場面を「 のスイミー」という題をつけていくという学習の計画を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1の場面を読み、魚のきょうだいたちが楽しく暮らしている様子を読み取り、音読する。 <p>魚のきょうだいたちと楽しくくらすスイミー</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 2の場面を読み、まぐろに襲われた恐怖や、一人ぼっちになったスイミーの気持ちを想像して音読する。 <p>まぐろにおそわれこわかったスイミー</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 3の場面を読み、スイミーが元気を取り戻していく様子を比喻の文を手がかりにおもしろいものの絵を書いたり、音読したりする。 <p>すばらしいものを見て元気をとりもどすスイミー</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 4の場面を読み、スイミーの気持ちや、きょうだいたちの様子を読み取り、音読の仕方を考える。 <p>(本時)</p> <p>まぐろをおいだそうと考えるスイミー</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 4の場面を読み、会話文の音読の仕方考える。 ○ 5の場面を読み、自由を得た喜びを理解し、場面の様子が表れるように音読する。 <p>大きな魚をおいだしたスイミー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。 				○ ○ ○ ○ ○ ○		【読】スイミーの気持ちの移り変わりや場面の様子を、大事な言葉を手がかりに想像しながら読んでいる。
三 2 時間	<ul style="list-style-type: none"> ○ 場面ごとに工夫して音読したり、劇にしたりする。 ○ 役割を決め、小道具をつけて劇をする。 				○ ○		【読】聞いている人に読みの工夫がわかるように音読しようとする。
四 3 時間	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「お話れっしゃ」をつくる活動のあらましを知る。 ○ メディアホールでおもしろそうな本を探して読む。 ○ 紹介カードを書き、「お話れっしゃ」を作る。 ○ 「お話れっしゃ」を見て、これからの読書計画を立てる。 <p>・易しい読み物に興味をもち、読むこと。</p>	○		○	○ ○		【関】おもしろそうな本を見つける。 【書】大事なことやおもしろいところを見つけて、友達に分かるように組み立てを考えて書こうとする。 【読】易しい読み物に興味をもち、読んでいる。

7 本時の計画（本時 7 / 14 時間 ）

(1) 本時のねらい

4の場面で「□のスイミー」という小見出しをつける学習活動を通して、元気を取りもどしたスイミーとまぐろにおびえている魚のきょうだいたちの様子を、叙述に即して読みとることができる。

(2) 本時の展開

分節	学習活動	教師の働きかけと予想される反応 本時の基礎基本	・留意点 【評価規準】 □ねらい達成のための手だて
課題をつかむ 5分	4の場面の学習であることを理解する。	T1 今日は、4の場面の学習をし、音読の仕方考えます。4の場面はどこからどこまででしたか。 C1 46ページ最初から48ページ8行目までです。 T2 みんなで読んでみましょう。	・前時までの学習を振り返る。 ・学習範囲を確認する。
かかわり合い、考えを深める 30分	4の場面はどんなスイミーであるか考えることで、元気を取りもどしたスイミーやまぐろにおびえている魚のきょうだいたちの様子を読みとる。	T3 □の場面のスイミーに題をつけましょう。 □どんな題をつけるか考えてカードに、わけも考えて書きましょう。 C2 きょうだいたちをあそぼうとさそうスイミー わけ:すばらしいものがいっぱいあるのにじっとしているのは、もったいない。 C3 小さな魚のきょうだいたちを見つけたスイミー わけ:岩かげにいて、かわいそうだし、えさもなくなるとわるいから。 C4 きょうだいたちにみんないっしょにおよごと教えるスイミー わけ:魚のきょうだいたちをたすけたいから。すばらしいものを見て元気いっぱいになったから。 T4 書いた題を発表しましょう。 C (発表) T5 友達のつけた題についてくわしく聞いてみましょう。 T6 自分のカードに友達の意見を聞いて最終的によいと思う題を書きましょう。最初の考えと変わってもいいです。 時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。 場面の様子などについて、想像を広げながら読むこと。	・□のスイミーとわけが書きこめるワークシートを用意する。また、短冊も用意し、子どもが考えを書きこめるようにする。教師は、時間的な流れを意識して黒板にはっていく。 ・必要に応じて、動作化も取り入れる。 ・大洋紙に教材文を書き、キーワードとなる言葉に線を引く。スイミーの気持ちが想像できたことを、子どもの発言を聞きながら書き足していく。題のわけを発表する際、根拠となる文章を音読させる。 ・T5の発問により、互いの意見についてのわけを知り、かかわり合いながら読み取れるようにする。 ・ほかの場面と違い、会話文が多いことに着目させる。それによって、スイミーの心情の変化が読みとりやすいと思われる。 【読】 4の場面の様子を大事な言葉を手がかりに読みとることができたか。 □どんな様子のスイミーと思うか聞いて、一緒に題を考える。
まとめ 10分	1時間の学習の成果を発表する。	T 自分が考えた題を発表しましょう。次の時間は、この場面の音読をしましょう。どんなふうにしたらよいか、読んで考えてみよう。	・自分のつけた題を発表する。 ・4の場面のスイミーの気持ちを意識しながら読ませるようにする。